みどりを育む

横造協だより

発　行　Vol.48
一般社団法人　横浜市造園協会
緑の諮問委員会
横浜市中区相生町6-104　横浜相生町ビル３階
TEL 045-662-9897　FAX 045-664-5633
http://www.yokohamashizoen.or.jp

「人や企業が集い、魅力と活気にあふれる都市」の実現に向けて

横浜市都市整備局長　堀田　和宏

はじめに

横浜市都市整備局長の堀田和宏でございます。本年４月に横浜市の都市整備行政を担う局の長となり、身の引き締まる思いで邁進しております。市民や事業者の皆様と連携しながら、持続的な成長・発展につながるまちづくり、都市を支える強靭な基盤づくりなどを総合的に進め、「人や企業が集い、魅力と活気にあふれる都市」の実現に向けて、全力で取り組んでまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

横浜市造園協会の皆様におかれましては、緑化や自然環境の保全などによる花と緑のまちづくりを通して、横浜市のプレゼンスを向上させるとともに、市民の皆様の安全で快適な生活環境の実現に多大なる貢献をいただき、誠にありがとうございます。

私自身は、入庁以来、特に担当者の時代には、駅前の再開発など、主に郊外部のまちづくりに携わってきました。新任の係長の際には、緑豊かな公園と墓園「メモリアルグリーン」（戸塚区）が一体となった整備に携わりました。従来の一般的な墓地とは全く違う、緑に包まれた自然を生かし、墓石のない新たな墓園を整備することができました。また、特別会計を設置し、墓地使用料で事業費を賄う、独立採算制の事業として取り組みました。

旧上瀬谷通信施設地区におけるまちづくりの推進

旧上瀬谷通信施設地区は、瀬谷駅から北に約２㎞の瀬谷区北部と旭区北西部にまたがった場所にあり、面積は約２４８・５ha（東西に約２㎞、南北に約２㎞）です。東名高速道路の横浜町田ＩＣや保土ケ谷バイパス上川井ＩＣに近接し、地区内を南北に環状４号線が、地区の北側を八王子街道が通るなど、広域での自動車交通の利便性が高い地区です。また、地区の南東側には、瀬谷市民の森、上川井市民の森、追分市民の森、矢指市民の森が連続しており、豊かな緑が広がっています。

元々は農地や山林でしたが、戦前に旧日本海軍が買収し、資材集結所などとして使用していました。戦後は、昭和26（１９５１）年に米軍に接収され、平成27（２０１５）年に返還されるまで、約70年にわたって土地利用が制限されてきました。

地区内は、フェンスで囲まれた区域（囲障区域）と囲障区域外に分けられます。

囲障区域内は、米軍の住宅及び関連施設として利用されていました。平成20（２００８）年に閉鎖されましたが、建物などの施設はそのまま残っています。↖

↖一方、囲障区域外は、約22haが横浜市へ譲渡され、国有農地の約１１０haが耕作者に売り渡されました。その結果、民有地が地区全体の約45％（地権者約２５０名（令和元（２０１９）年12月現在））を占めています。

土地利用が制限されていたため、農業専用地区でありながら、最低限の農業基盤すら整備されていませんでした。また、米軍の電波受信基地としての役割から、建物の高さや構造物の建築、栽培する作物などに厳しい制限がかけられました。

このような経緯を踏まえ、将来の土地利用については、地権者の皆様のご理解が必要であることから、意見交換を行ってきました。平成29（２０１７）年には、地権者の皆様により、「旧上瀬谷通信施設まちづくり協議会」が設立され、将来の土地利用を検討してきました。令和２（２０２０）年に、まちづくりの方針や土地利用の考え方を「旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画」としてとりまとめ、「農業振興」「観光・賑わい」「物流」「公園・防災」の４つのゾーンを配置するなど、土地利用の内容等を整理しました。

地区全景

その後、本年４月に土地区画整理事業の事業区域を都市計画決定し、10月５日には事業計画を決定しました。平成27年の返還以来、地権者の皆様と精力的に検討を行ってきましたが、いよいよ本格的に土地区画整理事業が開始されることとなり、将来の土地利用に向けたスタートラインに立つことができました。郊外部の新たな活性化拠点の実現に向けて、地域の皆様からの期待も高まっていると感じています。長きにわたり土地を接収されてきた地権者の皆様の思いを大切にしながら、多くの皆様に喜ばれるまちづくりを進めていけるよう、全力で取り組んでまいります。

国際園芸博覧会の推進

国際園芸博覧会は、国際的な園芸文化の普及や花と緑のあふれる暮らし、地域・経済の創造や社会的な課題解決への貢献を目的に、国際園芸家協会（ＡＩＰＨ）の認定を受けて開催される国際的な博覧会です。令和９（２０２７）年３月19日から９月26日までの約半年間、旧上瀬谷通信施設地区のうちの約１００haにおいて開催される予定です。本年４月に、「一般社団法人２０２７年国際園芸博覧会協会」が博覧会の開催者として指定されるなど、博覧会の準備が着実に進められています。

本博覧会は、最上位（Ａ１クラス）の国際園芸博覧会であり、令和元（２０１９）年のＡＩＰＨの開催承認に加え、博覧会国際事務局（ＢＩＥ）の認定を受けて開催する国際博覧会（認定博）です。６月にＢＩＥへ認定申請書が提出されており、年内には認定を受け、最上位の国際博覧会の開催が決定する見込みです。このクラスの国際園芸博覧会が日本で開催されるのは、平成２（１９９０）年の大阪での「国際花と緑の博覧会（花の万博）」以来となり、東日本では初めてとなります。また、７月には博覧会協会から基本計画案が発表されており、年内には確定される予定です。

広報ＰＲの取組では、博覧会の周知とさらなる機運の醸成を目的として、10月20日から11月５日まで、博覧会を象徴する「公式ロゴマーク」の公募が博覧会協会により行われました。㈱ＧＫデザイン機構　代表取締役社長の田中一雄氏を委員長とする選考委員会等で審査・選考され、来年２月ごろに決定・発表される予定です。

「公式ロゴマーク」などのツールを活用しながら、このビッグイベントを国内外の多くの皆様に知っていただき、さらに花と緑の持つ大きな力を広く伝えることで、博覧会の機運を大きく盛り上げたいと考えています。引き続き、横浜市造園協会の皆様をはじめ、市民や企業・団体の皆様と一緒に、博覧会の成功に向けて、全力で取り組んでまいります。

主催者展示のイメージ

略　　歴

平成元年４月	横浜市　入庁
平成24年４月	都市整備局市街地整備部市街地整備推進課市街地整備推進担当課長
平成26年４月	都市整備局市街地整備部市街地整備推進課長
平成28年４月	都市整備局企画部企画課長
平成30年４月	都市整備局企画部長
令和４年４月	都市整備局長

第45回通常総会を開催

5月31日メルヴェーユにおいて第45回通常総会を開催。左記議案について審議し全て承認された。

《承認事項》
第1号議案
令和3年度事業報告（案）の件
第2号議案
令和3年度決算報告（案）の件
第3号議案
定款変更（案）の件
第4号議案
賛助会員会費（案）の件

《報告事項》
第1号
令和4年度事業計画の件
第2号
令和4年度収支予算の件

総会終了後、「2027年横浜国際園芸博覧会について」一般社団法人2027年国際園芸博覧会協会事務次長補今冨雄一郎様からご講演をいただいた。

今冨事務次長補ご講演

2027年博覧会開催に向けて今できること

会長　田澤重幸

日頃、横浜市造園協会の事業活動にご理解、ご協力を賜り誠にありがとうございます。

コロナ禍、ウクライナ情勢、物価高と明るい材料が見えない昨今ではありますが、2027年に開催されます横浜国際園芸博覧会には、大いに期待を寄せている所であります。

当協会としましてこれまで園芸博をPRするために、花壇展での協賛花壇を設置するとともに、全国都市緑化くまもとフェアと北海道フェアでのPR花壇を横浜市と博覧会協会からの依頼により当協会が作製いたしました。認知度につきましてはまだまだの状況と考えておりますので、園芸博開催の機運醸成のために引き続きあらゆる機会をとらえてPRに努めてまいります。また、今後具体的なご協力につきましても出展等を含めて何ができるか、博覧会協会等とご協議をさせていただきたいと考えております。

旧上瀬谷通信施設土地区画整理事業の事業計画が決定され、公園整備と併せて園芸博に向けて着々と動きだしました。横浜市、博覧会協会、関係機関のご尽力に感謝申し上げます。

国際園芸博覧会開催に向けて当協会一丸となって全面的にご協力させていただく所存でございます。今後とも引き続きご支援・ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

令和4年度 横浜市環境創造局 事業概要等説明会を開催

4月14日メルヴェーユにおいて令和4年度横浜市環境創造局事業概要等説明会を開催した。

環境創造局挨拶
（橋本 みどりアップ推進担当理事）

環境創造局予算概要
（坂井 みどりアップ推進課長）

国際園芸博覧会に向けた取組と予算概要
（工藤 都市整備局国際園芸博覧会推進部長）

（仮称）旧上瀬谷通信施設公園について
（佐藤 公園緑地整備課上瀬谷担当課長）

ガーデンネックレス横浜2022
（小田嶋 みどりアップ推進課担当課長）

みどりアップ計画における助成事業等の取組
（小田嶋 みどりアップ推進課担当課長）

小柴自然公園整備事業について
（松村 公園緑地整備課担当課長）

公園の公民連携（P-PFI等）の取組状況
（唐澤 公園緑地管理課担当課長）

橋本みどりアップ推進担当理事ご挨拶

一般社団法人2027年国際園芸博覧会協会

検討状況

令和3年11月に一般社団法人2027年国際園芸博覧会協会が設立し一年が経ち、博覧会の開催に向け準備が進んでいます。

6月17日に、日本国政府より博覧会国際事務局BIE）に対して2027年国際園芸博覧会の認定申請書が提出されました。その中で、博覧会の会期は令和9（2027）年3月19日～9月26日と定められました。BIEによる審査を経て、次回のBIE総会における認定を目指しています。

7月には、「2027年国際園芸博覧会　基本計画案」を発表し、意見募集を行いました。299通にも及ぶご意見・アイディアが寄せられ、協会として皆様からの関心、期待感を受け止めています。いただいたご意見等に対しての協会としての考え方は、整理検討の上、基本計画の発表と合わせて公表します。

9月には、大阪・関西万博の開催主体である、公益財団法人2025年日本国際博覧会協会と包括連携協定を締結し、両博覧会の成功に向けて、運営準備や機運醸成等の取組を相互に連携・協力して実施していきます。

現在、基本設計の検討を進めている会場整備については、23年度に実施設計を進め、24年度からの工事着手を予定しています。

会場イメージ

広報PR・機運醸成

オランダ王国アルメーレで開催されたフロリアード2022では、日本国出展に協力し、屋外に「里帰り花壇」を作ると共に、ジャパンデーでは、屋内のメイン展示にも出展し、PRを実施しました。

日本国内では、横浜市造園協会の皆様のご協力を得て全国都市緑化フェアにてPR花壇を出展することができました。全国の皆様に園芸博覧会を知っていただく重要な機会となりました。

9月には、博覧会の公式ロゴマークの策定に向けて、応募要項を公表し、募集を行いました。横浜市造園協会の皆様には、ポスター掲示にご協力いただき誠にありがとうございます。ロゴマークは、審査、選考を経て、23年2月頃に発表します。公式ロゴマークと共に博覧会の機運をさらに盛り上げていきますので、引き続き応援をよろしくお願いいたします。

現在、公式Twitterの運用を行っています。博覧会に関する情報だけでなく、花・緑・農・食などの様々な情報を発信しています。ぜひフォロー、リツイートをお願いいたします。

QR_国際園芸博_Twitter

今後の予定

今後BIE認定にあたって、一般規則と参加契約書が承認されます。BIE認定後には、参加国への招請が開始されます。基本計画も発表します。

2024年からは会場の整備工事が始まり、26年からは参加国へ展示スペースが引き渡される予定です。

皆様に楽しんでいただける博覧会となるよう、引き続き準備を進めています。今後も応援よろしくお願いいたします。

アルメーレ博ジャパンデー出展の様子

2022アルメーレ国際園芸博覧会に協賛

オランダで開催されたアルメーレ国際園芸博覧会（フロリアード2022）日本政府出展に当協会は事業協賛を行った。

閉会に際して、日本国出展『Satoyama Farm Garden』は、博覧会事務局等による各国の出展に係るコンテストにおいて、AIPH（国際園芸家協会）の審査により、最も総合評価の高い出展に与えられるAIPH賞を受賞した。

「Satoyama Farm Garden」

樹木に魅せられて（第43回）

未来へ転がる種

横浜庭苑株式会社　古川 歌凜

突然ですが、私は座学が好きではありません。いきなり何だ、と思うかもしれませんが、これは私という個人を語るに大事なことなのです。これから未来を生きる方々へ、こんな考え方があるのだと一つの参考になれば幸いです。そんな意図で書かせていただきました。

樹木と触れ合うきっかけ

好きだった教科は？そう聞かれたら迷わず「体育」と答える。そんな私が樹木と触れ合うきっかけとなったのは、専門高校に入学してからでした。

その学校は畜産から食品、造園、その他の学科から成り立っていて、文字通り動植物と触れ合い、学を深めていく。という学校でした。そう、察しのいい方ならもうお気付きかと思いますが、専門分野を多く学ぶこの学校は一般的な高校より、普通教科を学ぶ回数がどうしても少ないのです。そんな理由で入学しました。

ですが、後先の無い「そんな理由」で入学した私は、今現在に至るまで終ぞ後悔することなど一度もありませんでした。学友と1から学び始める樹木、造園、草花はいつも私に驚きと楽しさをもたらしてくれました。輝かしい思い出ばかりです。

中でも特に好きだった授業があります。それは校内に多く生えている樹木の枝の一部を取り、特徴を捉えスケッチするというものでした。絵を描くことが好きだったので実際に見比べながら、時に調べながら描き上げていくのはとても楽しかったです。しかし、授業を重ねるにつれてその量は当然増していき、しまいにはテストという日に名の伏せられた全ての枝と再会することになるのです。（ご安心ください、悪い結果ではありませんでした。）

他にも野菜を育てたり、庭を造ったり、樹木の剪定をしたり。そういった、授業で実際に見て・触れて・体験し得たこと全てがちゃんと身になっている、と実感できたことがなにより嬉しかったです。

私の場合、そう思わせてくれたのが樹木（造園という分野）だったのです。

社会に

皆様は「里山ガーデン」という場所をご存じでしょうか。よこはま動物園ズーラシアに隣接する横浜市内最大級の大花壇のことです。

高校を卒業し、迷わず就職を選んだ私は造園会社に入社しました。そこで初めて携わった仕事というのがこの里山ガーデンの花壇等維持管理業務委託でした。

花壇管理と聞くと華やかなイメージを思い浮かべる方が多いと思いますが、実際の作業は表面だけでは分からない作業というのがいくつも存在し、また現場監督（補佐）という立場であったため、入社1年目は特に多くの事を学びました。

名前は同じでも品種が違う。見た目がそっくりなのに名前が違う。天候に左右され頭を悩ませながら携わっていた仕事ですが、周りにはその道に詳しい人達がたくさんいました。デザインの主旨や花の管理・植え方・潅水の仕方、芝生の種類に特性、樹木の移植に害虫。初めての事だらけで大変でしたが、3年程携わりそれを遥かに上回る経験を得ることが出来ました。なにより新しいことを覚えるのはとても楽しかったです。

しかし、1つ覚えるとまた1つ学ぶことが出てきます。世の摂理ですね。悲しくもあり嬉しくもある、そんな複雑な心境ですが手に届く範囲で1つ1つ丁寧にこれからも励んでいきたいと思います。

「座学が好きではない」そんな理由でころころと種のように転がってきましたが、どこかで根付き、芽が大きくなるように未来へとこれからも精進してまいります。

労働安全衛生大会を開催

7月21日　メルヴェーユにて令和4年度労働安全衛生大会を、感染症対策を徹底し開催した。

ご来賓
横浜南労働基準監督署長　齊藤　裕紀　様
横浜市環境創造局長　遠藤　賢也　様
横浜市道路局　横浜環状道路調整担当理事　曽我　幸治　様
横浜市財政局公共施設・事業調整室長　福島　雅樹　様　他　9名

出席者　51名（会員）

安全講話
横浜南労働基準監督署長　齊藤　裕紀　様

安全講和
横浜市環境創造局技術監理課　担当課長　大窪　和人　様

安全対策講習会
神奈川県戸部警察署交通課長　福島　崇　様

最優秀標語

作業時は　みんなの目で見て　確かめて
互いに声かけ　安全作業！
㈱ワールドグリーンメンテナンス　山口　岳雄

優秀賞
一造園土木㈱　小山田　直樹
㈱きたむら園　北村　理恵
㈱錦光園　渡邉　忠

委託安全パトロールを実施

実施日時
7月11日

実施案件
公園維持業務委託（鶴見区）
街路樹維持業務委託（磯子区・都筑区2か所）

総評

・公園入口の車止めについて

公園維持委託業務にて作業車両を公園内に乗り入れた後は、車止めを元に戻すか、カラーコーン等を設置して下さい。穴が開いたままですと、子どもの足が落ちたりつまずいたりして危険です。面倒がらず、安全に配慮下さい。

・作業機械などの燃料（ガソリン、混合油）の保管、取り扱いについて

必ずガソリン用携行缶を使用して下さい。（UNマーク等の国際基準品）

また、夏場など車内の気温が上昇しますので、換気可能な場所に保管して下さい。

会員の皆様には以上の事柄について、改めて全ての作業従事者へ周知をお願い致します。

秋の里山ガーデンフェスタ開催

ガーデンネックレス横浜2022秋の里山ガーデンフェスタが9月17日から10月16日まで開催された。来場者は84、852人となり秋のひと時を多くの方に楽しんでいただいた。

横浜市内最大級、約10、000㎡の大花壇では、横浜市内産のサルビアやジニア、コスモスなど赤色を主役とした約20万本の花々で彩られた。

三上さんと子供たちのワークショップの様子

また、ウェルカムガーデンでは、三上真史さんと子どもたちが一緒に作ったキノコのオブジェが飾られた。

今回の花壇のテーマは「情熱の丘（じょうねつのおか）」2022年の秋は、赤を主役とした多様な花の色彩で、燃えあがる自然の情熱を演出し、10回目の里山ガーデンフェスタ開催をお祝いした。

よこはま花と緑のスプリングフェア 2022「花壇展」

当協会が協賛している「よこはま花と緑のスプリングフェア2022 花壇展」が、「ガーデンネックレス横浜2022」の連携イベントして会員及び横浜農業協同組合に出展のご協力を頂き4月8日～5月5日の28日間、山下公園で開催された。

市民賞は来場者の投票で、その他各賞は花壇展審査委員会により決定した。

会場では堆肥のプレゼントや花苗の販売を行い、技と個性が光る21区画の彩り豊かな花壇が山下公園を訪れる人々を出迎えた。

花壇展はお陰様で今回59回目を迎えた。

【出展社】（受賞社を除く）
㈱港南植木ガーデン・相武造園土木㈱・㈱倉本造園・㈲関水商事・㈱杉本造園・相原造園土木㈱・㈱日本造園・㈲日向山庭園・ワコー緑建㈱・㈱錦光園・㈱鈴木緑化園・㈱丸孝造園土木・奈良造園土木㈱・㈱笹山植木

【横浜市会議長賞】
㈱滝川園　「希望への階段」

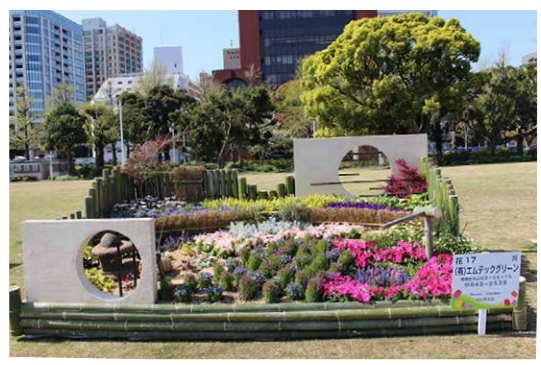
【横浜市長賞】【市民賞】
横浜農業協同組合　「休日」

【（公財）横浜市緑の協会理事長賞】
㈱グリーンケア
「横浜バラストーリー ROSE CITY YOKOHAMA」

【横浜市環境創造局長賞】
㈱ワールドグリーンメンテナンス　「春出水」

【神奈川新聞社賞】
㈱泰山園　「春香」

【みどりアップ奨励賞】
櫻井造園土木㈱　「春が来た！春が来た！」



【（一社）横浜市造園協会会長賞】
㈲エムテックグリーン「Reuse Garden」

横浜市造園技術交流会「造園技術伝承研修会」（竹垣）開催

3月26日から開催されていた「ガーデンネックレス横浜2022」の開催地の一つである横浜公園内彼我庭園において、造園技術伝承研修会竹垣作成を研修形式で開催した。

【日程】5月17日～19日
【会場】横浜公園内彼我庭園
【開催者】横浜市環境創造局（一社）横浜市造園協会
【趣旨・目的】日本古来の作庭技術の実施研修として『竹垣』をテーマに基礎技能習得を目的とする
【参加者】
・横浜市職員10名
・市造協会員26名
【講師】大胡周一郎氏
【対象者】横浜市職員
・横浜市造園協会員
【実施内容】庭園材料の加工と造作に係る基礎技能
竹一段柵の修復実習
竹垣（大津垣）作成見学研修

針金・シュロ縄結束研修

第40回全国都市緑化仙台フェア開催のお知らせ

杜の都から始まる未来、みどりを舞台に人が輝く

第39回全国都市緑化北海道フェア開催

第39回全国都市緑化北海道フェアが開催された。

愛称
ガーデンフェスタ北海道2022

出展テーマ
花と緑豊かなライフスタイル～楽しく心豊かに暮らすためのガーデン～

デザインテーマ
【YOKOHAMA GARDEN WEDDING ～June bride】

開催期間
6月25日～7月24日（30日間）

出展場所
メイン会場内 かわまちエリア

区画面積 40㎡

施工者 ㈱貝塚造園

新入会員のご紹介

入会日 令和4年5月1日
会社名 ㈲川島園
代表者 川島誠一
所在地 戸塚区汲沢町238-9 ※準会員

訃報

奈良造園土木㈱
代表取締役 青木洋一氏
ご尊父
青木昭久氏（享年86）
令和4年8月12日
ここに謹んで哀悼の意を表し心からご冥福をお祈り申し上げます。